

東京の水が合いました

サクランボ突る

東京・永田町の国会議事堂の前、切に育てたいあつて慣れない東
 郷に去年十一月植えられた頃の木、東京でも東をつけた一本に約
 ・サクランボが、再植のいかいあつて五十年ほどと多ないが、赤く白つ
 て樹幹を赤く赤く白くき始め、き始め、本場・山形より一層早く
 た。議事堂見学者は一日一万人を、最盛期に。
 繁るが、小学生たちからは「サ、典、義國院の前庭は、議事堂見
 クランボがなつてる」と、新川が、学のコース、四十七歳超の果
 あり、山形博士の大役を果たし、木を全部そろつて、五廿は、
 いる。

国会議事堂前

寒河江から移植—六カ月

山形売り込みに一役

サクランボは、寒河江市三原、や地方の各團體を、一日平均、
 農産部職員一さんが育てた八年生、一万人が訪れる。サクランボが極
 の「佐藤園」と「高砂」。議事堂、にいつているのを見るのは初めて
 の衆議院、議院の前庭に二本ずつ、の人はほとんどのようであつて、
 去年十一月二十六日移植した。そ、実がなつてゐる。「山形のサクラ
 の後、野原さん、農産部職員、ンボだ」と、木の売りでは毎日、
 風が、冬に甘んぢる行、三月に、秋雨が上がり、果の木のなかでも一
 肥料をわり、四月に人工授粉を行、番人気。
 開業者を心配させたりしたが、大、心も、遊佐町出身は「無出身
 クランボ

の国会議員は八十人ほどいるが、
 国会内にもよく果の木が登出し
 たので、みんなおぼれに思つてゐる
 と胸を張る。農産部職員の内藤
 正樹さんは「東京の人々に山形の
 サクランボを向あつけることがで
 きたよう」と、自信を語らせて
 いる。ホッとしている。
 野に取巻はしないため、今のと



山形県産のサクランボが、国会議事堂前庭に移植された。写真：山形県農産部